

# 三菱電機の成長戦略における知的財産部門の貢献

## はじめに

三菱電機は、総合電機メーカーとして、家電から重電、宇宙開発まで幅広い事業を展開しています。近年、グローバルな競争激化や技術革新の加速に伴い、企業にとって知的財産の重要性が増しています。三菱電機は、知的財産を現在、将来にわたる重要な経営資源と位置づけており<sup>1</sup>、知的財産部門は、企業の競争力強化、成長戦略の実現に重要な役割を担っています。

本稿では、三菱電機の成長戦略への知的財産部門の貢献実績について、以下の観点から調査しました。

- 三菱電機の知的財産部門の役割と活動内容
- 三菱電機の成長戦略における知的財産の役割
- 三菱電機の知的財産部門の貢献実績
- 三菱電機の知的財産部門の今後の課題と展望

上記の情報収集を通じて、三菱電機の知的財産部門が同社の成長戦略にどのように貢献してきたのか、その実績を具体的に明らかにし、今後の展望を考察します。

## 三菱電機の知的財産部門の役割と活動内容

### 知的財産部門の組織構造と人員規模

三菱電機の知的財産部門は、社長直轄の全社管理部門に属しており、知的財産戦略を全社的に推進する体制が構築されています。<sup>2</sup> 部門は、主に以下の2つで構成されています。

Department	Responsibilities	Personnel
知的財産渉外部	係争や渉外、商標、契約	約 30 名

Department	Responsibilities	Personnel
知的財産センター	特許の出願・権利化、係争の技術面	約 90 名

知的財産センターは、さらに以下の 4 つの部から構成されています。<sup>2</sup>

- 特許企画部
- 特許・意匠技術部
- 特許技術推進部
- 特許業務管理部

グローバルな出願・権利化推進体制としては、米国ワシントン DC、欧州ロンドン、中国北京に知的財産駐在員を置いており、さらに米国ロサンゼルスに係争対応の知的財産駐在員を配置しています。<sup>2</sup> また、製作所や研究所にも知的財産組織があり、合計人員数は約 350 名です。<sup>2</sup> さらに、知的財産専門の関連会社として、開発前の先行技術調査や、出願・審査請求時の他社特許調査、特許事務、知的財産教育等を行う株式会社エムテックがあり、約 150 名の人員です。<sup>2</sup>

## 知的財産に関する活動内容

三菱電機の知的財産部門は、特許出願、権利化、活用、侵害対策など、幅広い活動を行っています。<sup>2</sup>

### 特許出願・権利化

三菱電機は、国内外で積極的に特許出願を行い、グローバルな知的財産ネットワークを構築することで、海外市場での事業展開を積極的に支援しています。<sup>2</sup> 国内では年間約 6,000 件の特許出願を維持しており、海外では 2009 年の 5,000 件から 2013 年には 9,200 件に増加しています。<sup>2</sup> 特に、重要な市場である中国での特許出願数は、2009 年の 1,000 件から 2013 年には 2,000 件以上に倍増しています。<sup>2</sup> このように、中国をはじめとする海外市場における特許出願を強化することは、三菱電機のグローバルな事業戦略と合致しており、同社の海外市場における競争力強化に貢献しています。

### 意匠・商標

機能面だけでなく、デザインやブランドの観点からも技術を保護するため、国内外で意匠権や商標権の取得を推進しています。<sup>2</sup>

### 標準化活動

開発技術の標準化と、それに連携した知的財産活動を推進しています。<sup>2</sup> MPEG や Blu-ray Disc™ などの特許プールにおいて標準特許として認定された特許群を保有しており、これらの特許から知的財産収入を得ています。<sup>2</sup> また、国際標準に関連する技術の権利化を効果的に行い、国際標準に基づく製品のシェア拡大に貢献する差別化特許として活用することを目指しています。<sup>2</sup>

## 侵害対策

情報は見つかりませんでした。

## 知的財産に関する戦略策定と実行

三菱電機の知的財産戦略は、知的財産部（知的財産戦略本部）が中心となって策定・実行しています。<sup>2</sup> 知的財産部は、全社的な知的財産戦略の策定、知的財産権の取得・管理、知的財産の活用、知的財産リスクの管理など、幅広い業務を担っています。

## 三菱電機の成長戦略における知的財産の役割

### 事業戦略における知的財産の重要性

三菱電機は、知的財産活動を標準化活動と戦略的に連携させることで、事業を通じた社会課題解決や新たな市場創出を実現していくとしています。<sup>1</sup> 事業を支える3つの技術領域において、9つのコア技術を有しており、全世界で7万件もの特許を保有しています。<sup>1</sup>

### 知的財産を活用した競争優位性の構築

三菱電機は、知的財産権取得活動、標準化活動、知的財産権の利活用を戦略的に連携させることで、事業活動を支え、競争優位性を構築しています。<sup>1</sup> 知的財産活動と標準化活動を戦略的に連携していくことで、必要なルール形成や競争力確保を実現し、事業を通じた社会課題解決や新たな市場創出を実現しています。<sup>1</sup> 特に、国際標準に関連する技術から「差別化特許」を取得し、活用することで、市場における競争優位性を強化しています。<sup>2</sup>

### 知的財産による新規事業創出

三菱電機は、知的財産活動と標準化活動を戦略的に連携させることで、事業を通じた社会課題解決や新たな市場創出を図っています。<sup>1</sup> また、三菱電機グループとパートナー企業との技術とアイデアの「掛け算」で多様化する社会課題の解決に挑み、新規事業の創出を目指しています。<sup>1</sup>

## 三菱電機の知的財産部門の貢献実績

## 特許出願件数、権利化率、特許ポートフォリオの質

三菱電機は、国内外で積極的に特許出願を行い、権利化を進めています。<sup>2</sup>特に、中国などの重要市場における出願を強化することで、グローバルな事業展開を支えています。権利化率に関する具体的な情報は見つかりませんでした。出願件数の多さから、高い権利化率を維持していることが推察されます。

特許ポートフォリオは、家電、重電、FA、自動車機器、宇宙開発など、三菱電機の幅広い事業分野をカバーしており、質の高い特許を多数保有していると考えられます。コア技術であるパワーエレクトロニクス、情報通信、人工知能関連技術などにおいては、特に強固な特許ポートフォリオを構築していると考えられます。

## 知的財産を活用したライセンス収入、訴訟による損害賠償獲得

知的財産活用によるライセンス収入に関する情報は見つかりませんでした。<sup>3</sup>また、知的財産訴訟による損害賠償獲得に関する情報も見つかりませんでした。<sup>4</sup>

## 知的財産によるブランド価値向上、企業イメージ向上

三菱電機は、知的財産を重要な経営資源と位置づけ、知的財産活動を通じて、技術力やイノベーション力をアピールすることで、ブランド価値向上、企業イメージ向上に貢献しています。<sup>1</sup>例えば、積極的に特許出願を行うことや、国際標準に貢献する技術を開発することは、企業の技術力の高さを示す指標となり、顧客からの信頼獲得、ブランドイメージ向上に繋がります。

## 知的財産を活用したオープンイノベーション、共同研究開発

三菱電機は、知的財産を活用したオープンイノベーション、共同研究開発を推進しています。<sup>1</sup>パートナー企業との連携により、新たな技術やサービスの創出を加速させています。

## 三菱電機の知的財産部門の今後の課題と展望

### 知的財産戦略の進化と高度化

グローバルな競争激化や技術革新の加速に伴い、知的財産戦略の進化と高度化が求められます。AI、IoT、ビッグデータなどの新技術分野における知的財産戦略の強化、標準化活動との連携強化、グローバルな知的財産リスク管理体制の構築などが課題となります。

### グローバルな知的財産競争への対応

海外企業との特許紛争や模倣品対策など、グローバルな知的財産競争への対応が重要となります。海外における権利化の強化、侵害対策の強化、国際的な知的財産ルール形成への積極的な

参画などが求められます。

## 新技術分野における知的財産戦略

AI、IoT、ビッグデータなどの新技術分野においては、従来の知的財産戦略では対応できない新たな課題が生じています。これらの分野における特許取得、権利化、活用、侵害対策など、新たな知的財産戦略の構築が求められます。

## 知的財産人材の育成

高度化する知的財産業務に対応できる人材の育成が重要となります。専門知識やスキルを備えた人材の確保、育成プログラムの開発、グローバルな視点を持つ人材の育成などが課題となります。

## 結論

三菱電機は、知的財産を重要な経営資源と位置づけ、知的財産部門が中心となって、特許出願、権利化、活用など、幅広い活動を行っています。これらの活動を通じて、企業の競争力強化、成長戦略の実現に貢献しています。

具体的には、グローバルな特許出願、標準化活動への積極的な参加、オープンイノベーションの推進などを通じて、技術力の向上、新製品・サービスの開発、海外市場への進出を支援しています。

知的財産部門は、三菱電機の事業戦略において、以下の役割を担っています。

- **競争優位性の構築:** 知的財産権の取得と活用により、競合他社に対する優位性を確保
- **新規事業の創出:** 知的財産を活用したオープンイノベーション、共同研究開発を推進することで、新事業の創出を促進
- **ブランド価値向上:** 知的財産活動を通じて、技術力やイノベーション力をアピールすることで、ブランド価値向上に貢献

今後の課題としては、知的財産戦略の進化と高度化、グローバルな知的財産競争への対応、新技術分野における知的財産戦略、知的財産人材の育成などが挙げられます。

三菱電機は、これらの課題に対応することで、知的財産をより効果的に活用し、持続的な成長を達成していくことが期待されます。

## 引用文献

1. 知的財産 | 研究開発・技術 | 企業情報 - 三菱電機, 2月7, 2025 にアクセス、<https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/chiteki/index.html>
2. 三菱電機株式会社 - 日本知的財産協会, 2月7, 2025 にアクセス、[http://www.jipa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2015\\_05\\_705.pdf](http://www.jipa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2015_05_705.pdf)

3. 三菱電機グループにおける 国際出願制度の利用について, 2月 7, 2025 にアクセス、  
<http://www.tokugikon.jp/gikonshi/292/292tokusyu04.pdf>
4. PLC 用表示器に関する特許侵害訴訟において勝訴 | ニュース - ジェイテクト, 2月 7, 2025 に  
アクセス、 <https://www.jtekt.co.jp/news/2022/000266.html>